

# 運行支援サービスに充実

富士通グループのトランストロン（大岡信一社長、横浜市港北区）は、ネットワーク型デジタルタコグラフ「DTS-D1」シリーズと、クラウド型運行支援サービスで、運送事業者の至上命題である輸送の安全確保と経営効率化をサポートしている。

従来機種C1シリーズを進化させたD1シリーズは、2015年8月に発売。LTE通信モジュールを標準搭載したことで高速通信を実現した。

また、「使いやすさ」を重視。高視野角で文字が見

## トランストロン

やすい有機ELパネルは、従来に比べ1.5倍の大画面となっている。操作ボタンは手袋をしていても押しやすく、テンキーも独立させて給油量などを簡単に入力できるようにした。

音声認識機能を備え、手動入力を軽減。乗務員は話すだけで様々な操作が行える。免許証リーダーにより、免許証をかざすだけで乗務員を認識し、期限切れや不携帯も未然に防止する。

外部機器接続機能も充実させ、モバイルアルコール検知器との連携やスマートフォン（スマホ）を操作部

として活用することも可能だ。ドライブレコーダー搭載型機種では、独自の画像認識技術で車線逸脱と車間距離を検知し、その都度乗務員に警告。事務所にもリアルタイムに通知される。カメラは最大5台まで同時撮影が可能。92万画素のデジタルカメラにより、ナンバープレートまで鮮明に確かめられる。

## 用途に応じたデータ活用



を一括で確認できる仕組みを取り入れた。管理者は出先でもタブレット（多機能

カメラ5台の同時撮影が可能なDTS-D1D

携帯端末）を使い、必要な時に必要な情報を閲覧できる。また、DR動画（30秒）の無制限取得と、撮影した動画をクラウド上に保存することも可能になった。

同社では「お客さまの多様なニーズに対応するには、今後もハンドリングする情報は大きくなっていく。クラウドは情報量の増大にもすぐ対応できるのがメリット。使いやすさの追求と取得したデータの有効活用に向け、今後もお客さまの声を製品に反映する」としている。

（吉田英行）